

## 行政も職員もチャレンジ ほんの小さな成功体験がお役所を変える

### 朝

礼効果！三浦市役所行政管理部と政策経営室では本年1月4日から朝礼＋毎朝1人ずつ職員による1分間スピーチを始めました。「おはようございます」の挨拶と簡単な事務連絡の後、職員が日替わりでスピーチをしています。話の内容は、自分の目標、休日の過ごし方、趣味、健康管理、通勤途中で感じたことなどさまざまですが、各々の話は、実体験に基づいたものであり、とても説得力があります。組織としては「お役所仕事」と揶揄されることの多い市役所ですが、こうして一人ひとりの実感のこもったスピーチを聴いていると、職員一人一人はそれぞれ豊かな感性をもった可能性のある人財なのだということを実感することができます。朝のひと時がキリリと引き締まったものとなり、「さあ、一日が始まるぞ」という新鮮な雰囲気醸し出されています。

### そ

もそもなぜ、「朝礼＋1分間スピーチ」を始めたかという、一日の始まりとしてメリハリをつけたかったこと、自分の思いや抱負を気軽に語れる場を提供したかったこと、くらいの軽い理由からでした。いわば思いつきではじめたことですが、実際に行ってみると想像を超える効果がありました。行政管理部と政策経営室を合わせてワンフロア40人足らずの職場ですが、実に多彩な内容の話聞く事ができます。まさに十人十色の世界であることが実感できます。

### 行

政革命戦略～5つの宣言～では、その人財戦略の(1)基本認識の中で～失敗を恐れて現状に留まろうとする職員よりも、チャレンジ精神旺盛な職員を重んじます。チャレンジした上での失敗に対しては、人事考課上減点するようなことはしません。～と記しています。たとえ職員の前だとしても人前で自分の体験談などの話をするのは小さなチャレンジだと考えています。また、知っているようで知らなかった職員の個性や特長を発見することは、人事管理面でも大いに貴重な情報を獲得することにもなります。



### 小

さな成功体験。このように、当初はさほど効果を期待して実施したものではなかった「思いつき」の「朝礼＋1分間スピーチ」でしたが、時間の区切り、人前で話す、人の話を聞くといった、いわばあたりまえのことを毎日体験できる「善い習慣づけ」の場となっています。また、自分の話がイメージ通りにできた時、話し手は「小さな成功体験」を実感していることでしょう。行財政改革に取り組む行政機関や企業は、職員・社員の「イシキカイカク」を叫んでいます。そのために、講師の先生を1人呼ぶだけでも何万円もかかるような研修をしたりしています。いま三浦市では1円もかけずに「イシキカイカク」が進んでいます。ちょっとした思いつきで、職場の雰囲気を変えるような「習慣づけ」を続けるだけで、人の意識は変わるものです。「意識を改革しようと思っても、意識は変わらない。意識を変えようと思えば、まず善いことを習慣づけることだ」。このごろ、そのような思いを強くしています。

### 職

務専念義務が我々公務員には課せられています。たとえ1分といえども貴重な執務時間に「朝礼＋1分間スピーチ」を行っているわけです。職員は時間中に行っている事を忘れずに役に立つものとしなくてはなりません。職員の目のつけどころ、気づいたことの仕事への応用力、感受性の高さ、自分の信念など、スピーチを始めて7週間程度でこんなにも職員のマンパワーが高まったことは意外な副産物といえます。小さなことからチャレンジ 成功体験 検証と再チャレンジ 更なる成功としなくてはなりません。

